

令和6年度 第2回「おおだ未来☆夢ランド」の提言から

令和7年1月31日（金）

【テーマ】

「おおだ教育フェスタ・おおだ教育月間のあり方について」
～新・おおだ教育フェスタ～ その実施と今後の展開について

- 理解・関心・行動・繋がるをキーワードに学校・家庭・地域・行政が大田の教育を理解し、関心を持ち、行動し、繋がることで大田の子ども達の豊かな学びを育むことを目指して主体的に関わって繋がり合っていく、そういう大人をどう一緒に仲間に入ってもらえるような取り組みができるか。

【意見・提言】

教育フェスタの魅力あるコンテンツの重要性

- 視覚的、体験的な内容
- 実際の授業の公開・今の授業と昔の授業
- 大田独自の教育の魅力を知らせること
- 各ブースのイベントのボリュームをどこに置くかで、参加者がブースの回り方を考える

子どもたちが主体的に関わっていく

- 学校の学習を子どもが説明
- 大田の魅力を子どもが発信（面白大田人発見、大田宝物発掘：子ども学芸員）
- わたしの先生紹介、先生の日紹介（教職員の魅力と仕事についての発信）
- 高校生の商品開発（企業との協力）
- 子どもたちの意見を政策に反映させる（子ども生の声をきく）

繋がりあえる大人を増やしていく

- 親子で学ぶストーリー（子どもが学んでいる姿を大人が見る、親子でアイデアを出し合う。学校で学ばない内容のオプションを取り入れる）
- 一市二町の協定、四者連携協定（大田高校、邇摩高校、県立大学、市教育委員会）などを基にどう大人が繋がっていくかを探る
- 教育委員会と地域をつなぐ中間組織の重要性（教育に関する事業を企業に知ってもらい、協力できる企業を増やす）
- 多くの地域でこの取り組みに繋がる人を増やす（出張フェスタ：一部を他地域で公開）